



発行所 三池炭鉱労協組
大牟田市不知火町2
電話 3030番 3100番
編集人 山下 開
発行所 三池炭鉱労協組

石炭答申への反撃を

期末斗争を足場に

保安要求は保苗
炭労は三月一日期未手
当五万円で保安要求五項目
(保安諸法規・規程の完全遵守、
保安作業時の賃金補償、炭労保安
調査団の入坑、休業補償と遺族特
慰金の増額)を各社に提出し、た
たかいかを進めてきたが、二月一
日午前零時四十分妥結にいたっ
た。

妥結内容は
一、期末手当一人平均四万円(内
税抜一・七〇〇円)

二、支払い条件、年内六割残りは
来年五月一日支給
三、保安要求五項目は今回は保留
する。
交渉は三菱、住友、雄別の三社
が一日以降ストライキを背景に
先行妥結をはかるといふ戦術で行
なされたが、大手八社のうち前記
三社を含めた六社は三社妥結後直
ちに同一内容で妥結し、吉河は一
二日の期間内容で、明治は二五
日西日本ブロックと同時に二万五
千円で妥結した。

「答申」待ちでは
なかったか

三池労組は二月二日中央委
員会を開き期末手当斗争に対する
討議と確認を行なったがその中で
出されたおもな意見はつぎのとおり
である。

一、三社先行妥結という方針で行
なされた今回の戦術は大手八社二
斉ストライキに比べてどうい
う意味があるのかわからぬ。

二、期末手当斗争の時期が遅れた

これは指導部の中に石炭政策審議会
の中間答申待ちという空気があ
り、たかひではなかったか。

三、明治、貝島、高松、杵島など
は國家資金の導入によって「管理
炭鉱」として、労働者に一方的な
犠牲を強要する合理化がすすめら
れているが、そのような「管理炭
鉱」の期末手当斗争に対する炭労
としての取り組みと指導が十分
ではなかったか。

四、「石炭答申」によってわれわれ

張 炭労調査団を 主 迎えるにあたって

二月十六日より二泊三日の
予定で太田総評議長・山本炭労
委員長をはじめ一八名の代表者
が、三池斗争收拾後の現況に
ついて、組合員との交流をすす
めて実態を把握し、三池のた
かいかを全国の合理化斗争の基
調とするために来組する。

われわれは、本年に入り多
・伊王島・山野と相ついで大爆
発が起り、生産第一主義の石

炭政策が社会的に問題となり、
三池における合理化、労働強化
もいよいよ資本の本性をむき出
して冷徹無情なものとなっ
ている今日、このような調査団
が来組し、われわれのたかいか
の実態を理解する努力を高く評
価したい。

連帯と支援に感謝
しよ

たえず激励と支援をおしまな
かっただけで、炭労の仲間に関
心ある人々も、三池の調査を
歓迎するものである。

われわれは、この一連
の不当弾圧に耐えて、日常職
場や地域でおこなわれている
あらゆる不正・不法について、
あるいは第一組合のスト権喪
失の事実も、第二組合のスト
苦闘の事実も、あつてはすべて
合理解の事実とわ
れわれの確信をの
べよう。

調査団はその名称にもいごと
おり、とくに最近の三井鉾山の
不屈の抵抗に力をつけている
地域分会の交流をもつて、
三井・四井でそれぞれの立場分
会と交流し、同日の夜各支部の
このあたりの強化に努力
しよう。

「社会主義は人間を
人間にすることであ
る」
「知識が高くなるほ
ど知らないことが多く
なる」

この「管理炭鉱化」に対するた
かいかも本格化しなければなら
ないが、今度の期末手当はその前哨
と見なければならぬ。その
意味から考えれば、今度のたか
いかは、あまりにも一時金獲得
だけに重点がおかれたのではない
か。

われわれは今次期末手当斗争の
自己批判を含めて大衆討議をふ
かめよう。

離対協の期手斗争
三池炭鉱離対協の年未斗
争は二月二日に炭労及び三
池労組の下部協力組織として発足
した。離対協協議会は、結成後直
ちに政府、対員、対市の年未斗
争にのり、各々数項目の要求を
職場討議を経て提出した。政府要
求については中央炭労が、対員・
対市要求については九炭労と協
会が数回にわたり精神的な交渉を
重ねた結果、年末手当については
所期の満額獲得は出来なかったが
対市手当を除き左記のよう妥結
した。

政府要求、二三分。妥結二〇
・五日
要求、一万円。妥結三千八百五
〇円

市要求、公務員並(率)現在昨年
並みの(約一万円)回答にて交渉
継続中。註、一方(大牟田市甲
二)八百五十円

不当弾圧を調査

炭労は九州地方本部の要請に基
き、三池における不当弾圧を調
査するために炭労本部、各地方本
部代表からなる調査団を派遣する
ことになり、きたる十六日から
組する。

「三池支部不当弾圧、期斗争に
関する調査団」は山本炭労委員長
山口九本事務局長、相沢直炭労副
委員長をはじめとして企業連、各
単組代表者など一五名で構成され
顧問として太田総評議長、安恒
総評政治局長、原炭労顧問、阿久
根炭労顧問も参加する。

調査団の日程はつぎのとおり。
二月十六日 正午 大牟田 出発
一三時 三池 現場報告
一四時 記者会見
一五時 三池 現場報告
一七時 三池 現場報告
講演会(労協会館)

石炭政策とその課題 原
現在の経営情勢と労働運動
の課題 大田
二月十七日
九時 〇〇 家族との懇談会
一三時 校外施設見学

「韓国」から看護婦奉仕団一行
二十八人が十一月二十三日、韓
国からの「集団就航」として静
岡県浜松市住吉町の聖隷(せいれい)
病院に到着した。

彼女たちはハンドバック一つで来
たことより、労働条件がきつ

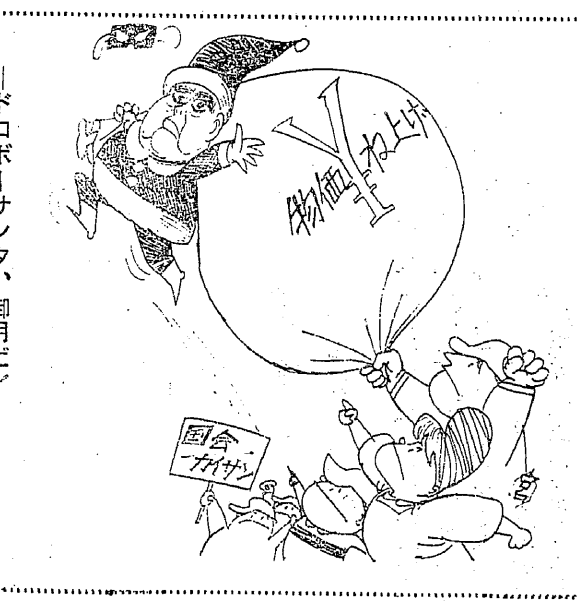
「韓国」から看護婦奉仕団一行
二十八人が十一月二十三日、韓
国からの「集団就航」として静
岡県浜松市住吉町の聖隷(せいれい)
病院に到着した。

彼女たちはハンドバック一つで来
たことより、労働条件がきつ

夫婦で討議する 宮浦動機職場集会

宮浦支部 宅集会所で行なわれた。まず古賀
内方助棟長 支部長よりの情勢報告を聞き、そ
炭(組合員)の後討議と交流がもたれた。
一三名で この集會は発足の主旨である組合
は、年一回 員はこう語った。「私たちが闘
の家族ぐるみの闘いでないとい
み(団結) ません。みんなが家族的な結
会がもたれ 中で、ガッチリとスクラムを組ん
でゆきませう。この会をもつと発展
常の職場問 させて、必要に応じて家族ぐる
題等は五人 の学習会と交流の場にしたい」。
組會議で討 また私尾さん、園田さんの奥さん
議され、全 は「ここに集まるようになっ
体的な意志 ち、地域が進歩と進歩がもたら
統一の場と だちになつて話し合えようにな
が、なごやかな雰囲気のうちにす
すめられている。

今年正月について二回目の
集会が二月二日、勝立通社
さまです」と話してくれた。



「ドロボーサンタ、御用だ」

韓国看護婦をク移入

「韓国」から看護婦奉仕団一行
二十八人が十一月二十三日、韓
国からの「集団就航」として静
岡県浜松市住吉町の聖隷(せいれい)
病院に到着した。

彼女たちはハンドバック一つで来
たことより、労働条件がきつ

われわれは、この一連
の不当弾圧に耐えて、日常職
場や地域でおこなわれている
あらゆる不正・不法について、
あるいは第一組合のスト権喪
失の事実も、第二組合のスト
苦闘の事実も、あつてはすべて
合理解の事実とわ
れわれの確信をの
べよう。